

台北駐日経済文化代表処代表 謝長廷氏(寄稿)



五輪 日台で感動共有

台湾の駐日大使に当たる台北駐日経済文化代表処の謝長廷代表「写真」が、閉幕した東京五輪について産経新聞に寄稿した。内容は以下の通り。

◆
これ、感動と勇気をもたらした。これは日本が開催地だからこそできたことで、敬意と感謝の意を表する。今回、日本が史上最多となる27個もの金メダルを獲得したことに、コロナ禍にあっても

収めることができた。

り、五輪でメダルを取ることを夢見たことがあった。しかし当時、日本との実力の差を思い知り、その夢をあきらめるしかなかった。今回、台湾の李智凱選手があん馬で銀メダルを獲得し、台湾初の体操競技のメダルとなった。私の少年時代になかなかった夢をこのような形でかなえてくれて、あきらめないことの大切さを改めて実感した。

24日からは東京パラリンピックが開幕する。引き続き台湾選手にも声援を送っていただけるようお願いするとともに、東京

東京五輪は、新型コロナウイルス禍という五輪史上、未曾有の困難とも言うべき状況の中、行われた。当初は開催自体も心配されたが、日本政府や五輪関係者、ボランティアの懸命な対応と準備により成功裏に開催さ

選手たちが安全にプレーに集中できるような支えてくれた関係者のおかげであり、重ねて感謝の意を表したい。

私は少年時代、体操競技の選手として台湾で日本の国体に当たる大会に出場したことがあ

今回、五輪では柔道や卓球などで日本と台湾が直接対決するシーンも多かった。柔道では決勝で楊勇緯選手が惜しくも高藤直寿選手に敗れたものの、試合後、共にたたえ合う姿は、まさに「友情、連帯、フェアプレー」の五輪精神の体現であり、さわやかな感動をもたらした。日本の友人からの反響も大きく、東京五輪開催の意義はまさにこのような国境を超えた友情と感動の共有であるとの思いを強くした。

今日のスポーツ交流が促進され、若い世代が友情を育み、切磋琢磨して選手たちのレベルアップが図られることを期待している。